

オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン・銅水和剤 バクテサイド水和剤	取扱メーカー： 日農、ホクサン、丸和 原体メーカー： 日本曹達、日本曹達、日本曹達
成分： アルキトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン〔抗生物質〕…1.8% (テトラサイクリン……………1.0%) ストレプトマイシン硫酸塩〔抗生物質〕……………12.5% (ストレプトマイシン……………10.0%) 水酸化第二銅〔銅類〕……………38.4% (銅……………25.0%)	性状： 淡青緑色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- ストマイ液剤20の項参照。
- 定評のある軟腐病防除剤であるオキシテトラサイクリン、ストレプトマイシン、水酸化第二銅の3成分配合により、一層高い防除効果を発揮する。
- 混合により持続性と速効性を発揮し、軟腐病を幅広く、有効に防除する。
- 耐性ができにくく、安定した防除効果が期待できる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤との混用はさけ、またボルドー液と混用する場合は、使用直前に混合する。
- 本剤の使用により、薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがある。特に高温多湿時には薬害を生じやすいので、留意の上散布する。
- はくさいに対して薬害を生じやすいので、炭酸カルシウム水和剤を加用し次の事項に十分注意する。
 - 幼苗期は特に薬害を生じやすいので、中期以降の散布にする。
 - 高温時には症状が激しくなるので散布はさける。
 - 炭酸カルシウム水和剤の加用は薬害軽減に有効であるが、収穫間際には汚れを生じるので留意する。
- ばれいしょの種いも処理にあたっては以下の点に留意する。
 - 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理する。特に春先の気温の低い地域では植付け後の地温の上昇が遅れ、萌芽や生育の遅延が助

長される場合があるので注意する。

- 浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので、所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守する。
- 薬剤処理した種いもは長時間濡れたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所で速やかに乾燥させる。
- 薬剤処理した種いもを切断する場合は、処理した薬液が十分乾いてから行う。
- 薬剤処理した種いもは食糧又は飼料には使用しない。
- 調製した薬液は、調製当日に使用する。
- 薬液の調製容器、種いも処理に使用した容器、器具などは水でよく洗浄し、その洗浄液及び残液、廃液はかんがい水路、排水路、河川、湖沼、井戸などの水系へ流さずに、環境に影響しないように適切に処理する。
- 適用作物（ばれいしょ、はくさい）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 甲殻類、藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- 夏期高温時の使用はさける。
- 共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用 病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	オキシテトラサイクリン を含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを 含む農薬の総使用回数	銅を含む 農薬の総 使用回数	
ばれいしょ	そうか病 黒あし病	50 ～ 100 倍	—	植付前	1 回	種いも 瞬間浸漬 散布	5 回以内 (種いもへの 処理は 1 回 以内)	5 回以内 (種いもへの 処理は 1 回 以内)	—	
		750 ～ 1000 倍								7 日前まで
たまねぎ	軟腐病	500 ～ 1000 倍		100 ～ 300 ℓ	14 日前まで		3 回 以内	4 回以内		
はくさい	1000 倍	200 ～ 700 ℓ								新梢伸長期 ～発病初期
樹 木 類			枝枯細菌病							